



門司区

地域で見守り、歴史を未来へつなぐ

- 白野江市民センター
- 田野浦市民センター



市民センターにおける生涯学習事業

区	門司区	センター名	白野江市民センター
---	-----	-------	-----------

事業・活動名

ハロウィン with こども 110 番ウォークラリー

事業・活動の背景とねらい・目的

白野江校区は門司区の北東部に位置し、海と山に囲まれた自然豊かな地域である。校区には白野江植物公園、部埼灯台や朝日の昇る美しい海岸線が広がっている。一方で、白野江小学校の児童数は 80 名を下回り、高齢化率は 40.6%と少子高齢化が著しい。しかし、校区内には子どもを地域の宝として大切に考える住民が多く、温かな地域性が受け継がれている。地域住民と子どもたちがつながり、安心・安全に子どもたちが健やかに育つまちづくりを進めることがねらい。

取組内容

白野江校区では、子どもたちが「こども 110 番の家」を巡り地域の防犯意識を高める取り組みを行ってきたが、近年は実施されていなかった。本年度は生涯学習事業として 6 年ぶりに再開し、春と秋の 2 回に分けて実施した。
両講座とも前半で防犯について学習した後、地域ボランティアとともに「こども 110 番の家」を訪問し、住民との交流を行った。秋はハロウィン企画として手づくり衣装を着て巡る形式とし、親しみやすい雰囲気の中で防犯意識の向上を図った。

成果・効果

本取り組みにより、子どもたちは「こども 110 番」を知識として理解するだけでなく、実際に掲示のある家や店舗を訪問・挨拶し、自分の目で場所を確認することで、具体的な避難先としての認識を深めることができた。住民との交流を通して、「いざという時に助けを求められる場所」が身近にあることを実感し、地域への安心感の醸成につながった。
また、同行した地域ボランティアとの関わりの中で、地域に支えられていることを体感する機会となった。協力者やボランティアにとっても役割を再認識する契機となり、校区全体で子どもを見守る意識の向上につながっている。

今後の取組

今後は、本取り組みを単発の行事にとどめず、継続的な生涯学習事業として定着させることが望ましい。子どもたちが繰り返し参加することで、「こども 110 番の家」の場所や役割を自然に身につけられる環境を整えることが重要である。
また、訪問先の「こども 110 番の家」や地域ボランティアとの交流を継続することで、顔の見える関係をさらに深め、日常的な声かけや見守りへとつなげていけると良い。将来的には、子どもたち自身が下級生に活動の意味を伝えたり、地域の防犯について考えを発信したりする機会を設けることも検討してはと思う。
こうした取り組みを重ねることで、地域全体で子どもを守る意識を高め、安心して暮らせる校区づくりができていくことと思う。

他地域展開を見据えた視点・ポイント

「110 番の家」の確認とイベントとの組み合わせは簡単にできることから、他地域でも、子ども講座の中でのウォーキングなどに併せて提案していきたい。

活動の様子

6年ぶりの復活!!

春



地域の駐在所のおまわりさんが自分の身を守る方法を教えてくれたよ

秋



家に衣装がなくても大丈夫！
ハロウィンの衣装はみんなと一緒に作ったよ♪

春



皆で列になって。横断歩道を一齐にわたるのは大変!!

秋



トリックオアトリート！「こども 110 番の家」の方には事前にお菓子を渡して協力依頼

地域・人づくりアドバイザー、地域・人づくり担当補佐の関わり

ハロウィンウォークをするにあたり、衣装を用意できない子どもたちの存在を考慮し、講座の中で衣装づくりをすることを後押し。ウォーキングにも参加した。

作成者

門司区役所コミュニティ支援課	地域人づくりアドバイザー	西 友子
門司区役所コミュニティ支援課	地域人づくり担当補佐	阿部 麻美

市民センターにおける生涯学習事業

区	門司区	センター名	田野浦市民センター
---	-----	-------	-----------

事業・活動名

みんなでつなぐ田野浦の歴史 ～「過去」から「現在」、そして「未来」へ。～

事業・活動の背景とねらい・目的

市の最北東部に位置する田野浦は、約1300年前の『日本書紀』に「曲浦（わたのうら）」としてその名が記される市内有数の歴史ある地域である。1185年の源平合戦においては、源範頼の軍勢三万余騎が布陣した地とされ、江戸時代には北前船の寄港地として繁栄を遂げた。現在も校区内には、多くの名所旧跡が点在している。

一方で、地域人口の減少や高齢化が進み、これらの歴史資源を次世代へ伝えていく担い手の不足が課題となっている。

本事業は、地域住民自らが田野浦の歴史や古跡を学び、「地域の宝」として再認識することで、郷土への愛着と誇りを育むことを目的としている。あわせて、地域全体で歴史を守り、未来へ継承していく意識を高めることをねらいとしている。

取組内容

田野浦校区では、地域の歴史を後世に伝えることを目的に、田野浦まちづくり協議会が中心となり、令和5年度から歴史事業が本格始動した。同年9月には第1回「歴史の道」調査を実施し、市民センターも全面協力し、職員も積極的に関わった。

市民センターでは、歴史事業の一環として、

- ① 歴史の道マップ「わがまち田野浦の歴史」の製作・発行（令和7年9月完成）
- ② 校区中心部に「たのうら歴史の看板」を設置すべく整備（令和8年秋完成予定）
- ③ 冊子「たのうら今昔物語」の再編集・発行（令和8年度中完成予定）

の3つの取組を進めている。

これらの成果物は実際に地域の方が郷土史を学ぶ教材としても活用されており、令和7年10月には田野浦小学校の3～6年生が、歴史のまちマップを手に地域住民の解説を聴きながら古跡を巡るウォーキング学習を実施した。さらに令和8年2月～3月には、市民センター主催で元北九州市立大学特別講師を招聘し、「春の特別講座」として地域の歴史を学ぶ連続講座（全3回）を実施するなど、郷土史を学ぶ輪を広げている。

成果・効果

これらの取組により、田野浦校区住民の郷土史への関心が高まり、地域の歴史を「知り、学び、伝える」動きが広がっている。

特に、歴史の道マップを手に実際に地域を歩く小学生の学習は、自分たちの住むまちへの理解と愛着を深める機会となった。また、早鞆中学校の生徒が歴史講座への参加に関心を示すなど、校区内の教育機関を巻き込んだ取り組みへと発展しつつある。

市民センターとまちづくり協議会が連携し、地域の歴史を生かした生涯学習が、校区全体のまちづくりとして着実に根付き始めている。

今後の取組

「わがまち田野浦の歴史」「たのうら歴史の看板」「たのうら今昔物語」の3つの成果物については、完成をゴールとせず、内容の見直しや改定を重ねながら、地域の歴史を未来へつないでいく。特に「たのうら今昔物語」は、推敲を重ねて完成度を高めるとともに、今後も新たな資料や発見を反映できるよう、柔軟に改編しやすい形での整備を目指す。

他地域展開を見据えた視点・ポイント

地域に点在する歴史資源を掘り起こし、マップや看板等で可視化することで、住民主体の学びとまちづくりにつなげている点が特徴である。この手法は他地域でも応用可能であり、将来的には周辺観光地との連携も視野に入れている。

活動の様子



田野浦の歴史についての思いを熱く語る
西岡宏文会長

田野浦には幕末にかけての古跡が多く残ります。小中学校・市民センターと連携し歴史を後世に伝えとともに、門司港レトロ観光の延長としてお立ち寄りいただければ幸いです。

歴史の道マップ
完成！



歴史の話に耳を傾け、歴史の道マップを片手に
寺社を見学する田野浦小学校児童



田野浦の歴史を学ぶ3回連続
講座也大盛況

地域・人づくりアドバイザー、地域・人づくり担当補佐の関わり

助成金についての助言を行うなど、実現に向け支援した。

作成者

門司区役所コミュニティ支援課	地域人づくりアドバイザー	西 友子
門司区役所コミュニティ支援課	地域人づくり担当補佐	阿部 麻美